

情報発信とサービス向上

病院長 柿澤 卓

日頃は大変多くの患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。

さて、「水道橋畔発」とともに先生方に新しい情報を提供しようと催しております「水道橋病院症例報告会」も、去る4月10日に第7回を開催することができ、多くの先生方のご参加をいただきました。

今回は抜歯やインプラント治療に関連し、投与中の患者に顎骨壊死を起こすと言われている「ビスホスホネート」を取り上げ、さまざまな情報を提供し、多くの反響を頂きました。しかし、ご都合でご参加いただけなかった先生も多いようでしたので、本号では少々紙面を割いて、「ビスホスホネート」の新しい情報を取り上げてみました。

本剤のこのような副作用は、新聞報道でも一般人に広く喧伝されております。

もし本剤を服用している患者に不用意に外科的処置を施した場合、顎骨壊死を起こせば無論のこと、結果的に副作用を惹起しなくとも、このようなベースの患者に投与しただけでも、最近では訴訟等大きな問題に発展しかねません。このような患者が来院した場合、実際現状でどのように対処するかは難しい問題ですが、是非ご一読いただければ幸いです。

また、当院では先生方とのより良い病診連携と顧客満足度向上のために、サービス向上委員会を立ち上げました。本委員会はトップダウンではなく、教職員の間から自然発生したもので、意識向上の一端であると期待しております。しかしながら、患者主体の医療と言葉では唱えながらも、われわれ医員や医療職員の都合を優先した医療になりがちです。この度の報告会でも、アンケートで貴重なご意見やご提言をいただきましたが、その点を痛感させられました。そのようなことから、患者あるいは先生方への対応等について、お気付きの点がございましたら、是非お聞かせ下さいますようお願い申し上げます。

講師就任のご挨拶

口腔外科（口腔外科学分野） 高崎義人



平成20年1月1日付けを持ちまして、口腔健康臨床科学講座講師を拝命いたしました。昭和63年に口腔外科学第一講座に入局後、平成11年より水道橋病院口腔外科に異動、平成18年から医局長を勤めさせて頂いております。

この度、講師の命を頂き身の引き締まる思いです。

現在、水道橋病院では基幹的歯科病院構想に基づいた改革が推し進められております。私としては微力ではございますが、柿澤 卓病院長の御指導の下、先生方と今まで以上の緊密な病診連携体制を確立し、エビデンスに基づいた医療サービスの実践を目指したいと思っております。

今後も皆様の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

着任のご挨拶

口腔外科（口腔外科学分野） 笠原清弘



この度、平成20年4月1日付けで水道橋病院口腔外科に配属となりました。私は平成3年卒ですが、水道橋病院が新しくなってから最初の登院実習生でした。その当時の医局長の先生に、真新しい口腔外科の外来や手術室を案内

していただいたことを鮮明に覚えております。これまでは千葉病院口腔外科に勤務しておりましたが、卒後17年を経て水道橋に赴任することになり、非常に感慨深いものがあります。

そしてこの6月より、柿澤 卓病院長のご指示により医局長を拝命いたしました。当院口腔外科の診療は、

埋伏智歯の抜歯から顎変形症の手術などに至るまで多岐にわたっております。このような体制の中、特に地域の歯科医師の先生方とは密接なコラボレーションを展開し、より質の高い医療を提供したいと考えております。

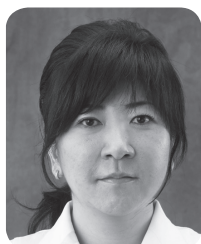
何分新参者のため、高崎前医局長のように円滑な運営はできないかと存じますが、精一杯努力していく所存であります。今後とも、宜しく願い申し上げます。

眼科新任医師と診療体制のご紹介

眼科科長 ビッセン宮島弘子

【2名の新任医師】

平成20年4月より眼科医師の交代がありましたので、新任2名をご紹介します。



吉野真未

1986年東海大学医学部卒業後、慶應義塾大学医学部眼科学教室入局。慶應義塾大学病院眼科で白内障の臨床、研究に従事し、その後、7年間新葛飾病院眼科医長。私（ビッセン）と大学で同じ研究チームに所属し、白内障、屈折矯正手術が専門。忙しい外来や手術をてきぱきこなしてくれる優秀な先生です。



吉田麻理子

1996年杏林大学医学部卒業後、独立行政法人国立病院機構東京医療センターにて研修。慶應義塾大学眼科学教室からのローテーションとして水道橋病院に勤務。眼科一般診療のみでなく救急外来患者が非常に多い医療センターで豊富な臨床経験を積み、白内障、屈折矯正手術における専門知識を深める意欲で一杯です。

【診療体制】

新任2名が加わり女性医師3名の常勤医体制となりました。お蔭様で患者数は順調に伸び、常勤3名では外来、手術がまわらない状態です。昨年に引き続き、3名の先生が診療援助にいらしています。木曜日が中村邦彦先生（たなし中村眼科、慶應義塾大学非常勤講師）、井上 真先生（杏林大学眼科准教授、慶應義塾大学非常勤講師）、金曜日が鈴木高佳先生（国際親善病院眼科部長）です。中村先生は白内障、屈折矯正手術はもちろん緑内障、斜視と広い範囲にわたって正確かつ丁寧な診察をさせていただきます。井上先生は網膜硝子体が専門で、国内外の学会で大活躍の多忙な先生です。水道橋病院に最新の検査装置が導入され、今まで他施設に紹介していた網膜関係の手術も一部外来手術として可能になりました。鈴木先生は4年間水道橋病院勤務の後も引き続きいろいろな疾患の診察と治療を行っています。

診察は月曜から土曜の午前中、月曜と水曜午後は白内障手術、木曜午後はLASIK手術、それ以外は特殊検査、レーザー治療を行っています。診察待ち時間を緩和する

ため、診察ご希望の場合、初診、再診にかかわらず、眼科外来へ電話で来院予約をおすすめしております。

東京歯科大学水道橋病院

眼科外来直通 ☎ 03-5275-1856

第7回 水道橋病院症例報告会

高久勇一郎

日時：平成20年4月10日（木）

場所：TDCビル2階 血脇記念ホール

特別講演

東京歯科大学歯科放射線学講座 主任教授

佐野 司

「エックス線診断の最前線」として講演しました。日常の診療でも欠かせないデンタル撮影とパノラマ撮影においても、パラダイスシフトがおきており、ここ10年の間に他の領域と同様にデジタルが導入され、線量の低下、画像およびその質が容易になるようになったこと、最新の歯科用CTの現状について、実際の臨床例をあげて講演が行われました。

昨今、医科と歯科との連携が重要視されており、このような状況下でパノラマ画像が全身疾患のスクリーニングに寄与する可能性についてもお話いただきました。

近年ビスホスホネート（以下BP）系薬剤を使用して治療を受けている患者に、顎骨壊死を生じる例が報告されており、BP系内服患者の歯科治療が問題になっております。今回は「BP系薬剤投与患者の歯科治療」「BP系薬剤による顎骨壊死を起こした症例」「インプラント治療希望で来院したBP系薬剤服用症例」に分けてBP系薬剤をメインテーマとして講演いたしました。

インプラント治療希望で来院したBP系薬剤服用症例

田口達夫、関根秀志、松崎文頼

現時点では既にインプラント治療が施されている患者から強い希望があったとしても、骨粗鬆症としてBP系薬剤を服用している患者については、薬の種類や投薬継続期間に関係なく歯科治療全般に影響があるため、原因を解明しない限り緊急での治療以外は見合わせた方がよいと考えられました。

経口BP系薬剤によると考えられる顎骨壊死の1例

高久勇一郎、羽鳥友子、高野正行、柿澤 卓、森山貴史

当院で長期間歯周病の治療とメインテナンスをしており、Pの診断下に抜歯を行ったところ治癒不全を起こ

し、症状が改善しないため口腔外科にて精査したところ、腐骨の形成と経口 BP 系薬剤の服用が判明した患者の経過と治療内容を発表しました。特に経口 BP 系薬剤の処方医とコンサルトを行いながら治療を進めていく重要性を報告しております。

BP 系薬剤投与患者の歯科治療

齊藤 淳，関根秀志，古澤成博

各症例の発表の後に総論としてまとめ、歯科治療における問題点とその対応について報告しました。BP 系薬剤関連顎骨壊死は一度発症すると今現在、治療の決め手がないため、いかに予防するのが重要なと、BP 系薬剤を使用中あるいは使用予定の患者の歯科治療について、詳細な問診を含めた診査を行い、処方医との連携のもと、十分なインフォームドコンセントが必要であることをお話ししました。

水道橋病院リスクマネジメント委員会の活動報告

看護師長・リスクマネジメント委員会副委員長
鈴木福代

これまでのリスクマネジメント委員会の活動について御紹介させていただき、水道橋病院の医療事故防止対策の現状について、報告させていただきたいと思います。

平成 19 年 4 月の医療法一部改訂で、安全で質の高い医療を確保することが、全ての医療機関に義務化されました。当委員会では、① 医療安全管理体制の整備、② 院内感染対策の充実、③ 医薬品の安全管理手順書の整備、④ 医療機器の安全管理体制の整備などを目標に活動しています。その一環として、ヒヤリ・ハット、アクシデント報告の体制の整備、マニュアルの改訂、手順書・指針の作成などに取り組んできました。報告されたヒヤリ・ハット、アクシデント事例は毎月集計を行うとともに、事例検討・再発防止対策の検討などを実施しています。そして昨年度より、「院内ラウンド」「トピックスの発行」を行っています。

「院内ラウンド」は、医療安全・事故防止の基本として、産業界で取り入れられている 5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）運動の視点で、各診療科、部門のラウンド（＝巡視）を行っています。ラウンドは異なった視線での巡回を重視し、リスクマネジメント委員が交代で担当することになっています。委員はデジカメ持参でラウンドを行い、現場サイドへのフィードバックを行うとともに、各部門が情報を共有できるように委員会で、その内容を報告しています。

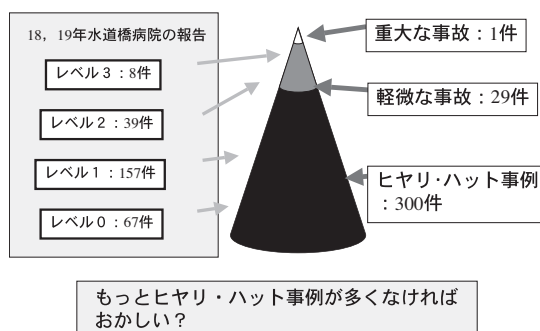
「トピックスの発行」は、リスクマネジメントに関する情報として、2 か月に 1 回発行し各部署に配布し、見える場所に貼付するようにしています。図 1 は最近発行したトピックスで、水道橋病院のヒヤリ・ハット、アクシデント報告をハインリッヒの法則と比較し、情報の共有化の重要性と事故の再発防止、リスクマネジメントの考え方を記載しています。

図 2 は当委員会で作成した事故防止対策マニュアルの一部で、「針刺し事故発生時の対応」、「誤飲・誤嚥・患者急変時の対応」です。口腔外科外来では医局入り口ドアに貼付し、緊急時に速やかに対応できるようにしています。

医療事故防止のポイントは未然にその危険性を予測し、予防対策を立てることが大切です。職員全員がリスクに対する感性を高め、事故防止の基本ルールを守ることが、より良い医療安全を構築するものと考えます。

第 6 回リスクマネジメント部会トピックス

ハインリッヒの法則



リスクマネジメントの考え方を再確認しましょう

ヒヤリ・ハットを報告する意味

システムの欠陥を速やかに発見し、その内容を分析して改善へとつなげるために、医療事故例ばかりでなく、医療事故に至らぬ事例（ヒヤリ・ハット事例）と改善策についても、多くの人々が速やかに共有できる体制を構築すること

図 1

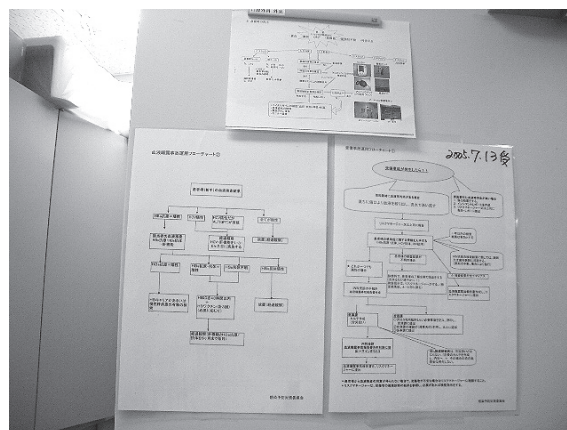


図 2 口腔外科外来医局前に貼付したマニュアル

勉強会・セミナーのお知らせ

1. 東京歯科大学外科矯正治療勉強会

外科矯正治療での連携を深めるため水道橋病院、千葉病院、市川総合病院の口腔外科合同主催で外科矯正治療の勉強会を開催します。顎変形症の治療に関わる矯正歯科医、口腔外科医など、どなたも参加自由です。

日時：平成20年7月10日（木） 17:30～19:30, 水道橋・TDCビル二階・血協記念ホール, 参加費：5,000円（懇親会込み）

詳細は口腔外科の高野正行（takano@tdc.ac.jp）まで。

2. 口腔健康臨床科学講座主催、オープンセミナー

フライブルグ大学口腔顎顔面外科、Schmelzeisen 教授をお招きし「安全で確実性の高いインプラント外科テクニック」、「ドイツにおける歯科およびインプラント教育の現況」という内容の講演会を実施いたします。ご参加ください。

日時：平成20年7月25日（金） 18:00～20:00, 水道橋・TDCビル二階・血協記念ホール, 逐次通訳付き, 参加費：無料

詳細は株式会社アルタデントホームページ <http://www.altatec.co.jp/> または口腔インプラント科の関根秀志（sekine@tdc.ac.jp）まで。

水道橋界隈スケッチ

三崎神社大祭

毎年5月の黄金週間には三崎神社の祭礼があり、今年は2年に1度の大祭で5日に宮御輿の渡御が執り行われました。



◀三崎神社
御輿が担ぎ出されたあとの神社は、いつもどおりひっそりとしています。



▲▲
揃いの絆纏を着た人々がとても立派な宮御輿を担ぎ、セイヤ・セイヤの大きなかけ声とともに軽やかな足取りで白山通りを練り歩きます。



◀老若男女一体となって地域のパワーが感じられます。この子もいずれ地域の大切な担い手になるのでしょう。

3. 歯界展望別冊「はじめてのインプラント治療」発行

平成16年度より実施されております本学同窓会卒業後研修インプラントセミナーの内容が、一冊のテキストとしてまとめられました。「諸刃の刃」であるインプラント治療を正しく導入するために必要な知識・技術がわかりやすくまとめられています。ご一読ください。



水道橋界隈の写真募集

水道橋界隈の思い出深い写真を募集します。御提供頂ける場合は、水道橋畔発編集委員までご連絡ください。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧

総 合 歯 科	03-5275-1721 1722
口腔インプラント科	03-5275-1760
小 児 歯 科	03-5275-1723
矯 正 歯 科	03-5275-1724
口 腔 外 科	03-5275-1725
歯 科 麻 酔 科	03-5275-1851
眼 科	03-5275-1856
内 科	03-5275-7926
放 射 線 科	03-5275-1953
庶 務 課 FAX	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内

初 診 受 付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診 療 時 間	平日 午前9時から午後4時30分 土曜 午前9時から午後12時
休 診 日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日（2月12日）、年末年始

編 集 後 記

・作成したばかりの原稿を保存しそこねた、外出先で雨のためコンビニで傘を買う、日ごろ「しまった」と思うことが多々あります。医療の現場では「アクシデント」そのようなことがないよう、志を新たにしております。
・本号より編集委員の顔ぶれが変わりました。紙面も、リニューアルしていきたいと考えております。ご意見をお寄せいただければ幸いです。

水道橋畔発編集委員

編集委員長 柿澤 卓
編集副委員長 関根秀志、高久勇一郎
編集委員 高野正行、古澤成博、福田謙一